

図画工作科学習指導案

令和2年12月18日（金） 第2学年2組（第1図工室） 指導者 大塚 裕貴

【題材】けいとわーど（造形遊び）

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	- 毛糸を結ぶことやつなげることを手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫する力（A(2)ア） - いろいろな毛糸の結び方やつなげ方やそれによって作られた形などに気付く力（共(1)ア）	- 毛糸を結んだりつなげたりしながら造形的な活動を思い付くことや、毛糸の形から思い付いたことを基に活動を考える力（A(1)ア） - 形や色、空間などを基に、自分のイメージをもつ力（共(1)イ）	つくりだす喜びを味わい、いろいろな毛糸の結び方やつなげ方を見付けたり、毛糸の形からイメージや思いを広げたりして学習活動を楽しむ態度
児童の実態	- 生活の中に様々な色や形があることを知っている。 - 作品や活動部分、全体を見るなどの見方や考え方を考えることによる新たな形や色に気付くことへの意識が弱いことがある。	- 作品づくりや活動の中で、その時に思い付いたことをすぐに生かそうと考えることができる。 - 作品や活動に対するイメージが固執してしまう場合、友達の作品や活動を基にイメージや思いを広げられないことがある。	- 楽しみながら意欲的に造形活動に取り組んでいる。 - じっくりと活動に取り組む経験が少ない。 - 造形活動によって得た学びの自覚ができていないことがある。
価値	- 本題材では毛糸を教室内で結んだり、つなげたりしながら、形をつくり、できた形から自分なりのイメージを広げる造形遊びを行う。毛糸を結んだりつなげたりする時には、結んだりつなげたりするための始点と終点を決める。このような活動の過程では、点（部分）と線（全体）を基にして造形的な見方や考え方を働かせながら表現活動や鑑賞活動が行われる。毛糸が教室内に張り巡らされてくると目線の高さや角度によって毛糸でできた形などの見え方が大きく変わる。毛糸を結んだりつなげたりする活動とできた形などを見る活動の往復を促すことは、毛糸を結んだり、つなげたりすることへの意欲を高め、毛糸でできた形などに対するイメージや思いを広げることにつながる。 - 結び方やつなげ方、毛糸の張る力の強弱によって、毛糸の張りや緩みに気付ける。	結び方やつなげ方、毛糸の張る力の強弱によって、できる毛糸の張りやゆるみなどからイメージを広げ自分の思いをもつことができる。	活動の軌跡が毛糸となって残るため、自己の活動に対する振り返りの意識がもてる。
見方・考え方	毛糸を結んだり、つなげたりすることやそれによってできた形から、自分なりのイメージをつくりだすこと。		
今後の学習	3年「ダンボールをつなげたら」で段ボールを切ってできる形や形の組合せを工夫する造形遊びの学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	様々な毛系の結び方やつなげ方を工夫したり，毛系の形などを基にイメージや思いを広げることができることを自覚する。			
評価 規準	(①知・技) 様々な毛系の結び方とつなげ方やそれによって作られた形などに気付くとともに，気付いたことを基に活動を工夫している。 (②思・判・表) 毛系を結んだり，つなげたりしながら造形的な活動を思い付くことや，毛系の形などから思い付いたことを基に活動を考えている。 (③主体的態度) つくりだす喜びを味わい，様々な毛系の結び方やつなげ方を見付けたり，毛系の形などを鑑賞したりして学習活動を楽しもうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
であ う あ ら わ す ・ ひ ろ げ る ふ り か え る	I	○毛系の結び方やつなぎ方を工夫したり，できた形などを鑑賞したりする。(本時)	○新たな毛系の結び方やつなげ方を思い付けるように，タブレットで俯瞰の映像をモニターで見られる環境を設定する。	◇毛系を結ぶことやつなげることに繰り返し取り組んだり，毛系の形などから思い付いたことを発言したりしている。＜行動・記録写真②＞
	I	○毛系でつくった形を生かして，毛系の結び方やつなぎ方を工夫したり，できた形などを鑑賞したりする。	○前時の活動を基にイメージや思いが広がるように，撮影した前時の活動の様子や児童の記録した画像などをモニター上に提示する。	◇様々な毛系の結び方やつなげ方やそれによって作られた形などに気付いている。＜行動・発言①＞
		○活動を通して感じたことや思ったことを基に学習を振り返る。	○様々な毛系の結び方やつなげ方を工夫し，毛系の形などを基にイメージや思いを広げたことについて自覚できるように，学習して気付いたことや感じたことを振り返る時間を設定する。	◇毛系を結ぶことやつなげること，できた形などを見ることを楽しんでいる。＜行動・発言③＞

本時の学習（1／2時間目）

ねらい 毛糸を結ぶことやつなげること、毛糸に光を当て、できた毛糸の形を鑑賞することを通して、様々な毛糸の結び方やつなぎ方を工夫したり、毛糸の形などからイメージをもち、思い付いたことを基に活動を発想することができる。

評価項目 毛糸を結ぶことやつなげることに繰り返し取り組んだり、毛糸の形などから思い付いたことを発言したりしている。 <行動・記録写真②>

学習活動・児童の意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・毛糸をぴーんとたくさんつなげたら、面白い形ができそうだな。 (目的意識) めあて：むすんだりつないだりして図工しつを「けいとわーんど」にかえよう	○毛糸を結んだりつなげたりして形をつくることへの興味・関心が高まるように、あらかじめ、教室に数本の毛糸を結んだり、つなげたりしておく。
2 「けいとわーんど」をつくる。 ・毛糸をどこからつなげようかな。 ・強く結ぶと周りの毛糸が引っ張られて、ゆるく結ぶと毛糸の結び目を移動できるのだな。 ・上からの映像を見ると蜘蛛の巣のようだな。 3 「けいとわーんど」を鑑賞する。 ・ライトの光が動くと毛糸の影も動くのだな。毛糸にライトを近づけると影の線が太くなって、遠ざけると影が細くなるよ。 ・ライトを使って毛糸を上から照らした時と下から照らした時では見え方が違うな。いろんな角度で写真を撮ってみたいな。 ・昼の時間に毛糸の結び方やつなぎ方を工夫すると影の形が変わってもっと面白い景色が見えるかもしれないな。 ・いろいろな場所に毛糸を結んだりつなげたりできたし、毛糸の形でできた気に入った景色を見付けることができたよ。 (目的を達成した意識)	○毛糸の結び始めやつなぎ始めの意識がもてるように、児童に教室内の結び始めの場所やつなぎ始めの場所を問いかける。 ○毛糸の結び方やつなぎ方の力の強弱によってイメージが変わることに気付けるように、結んだりつないだりする時の強さや位置などの児童のつぶやきや思い付きを共感的に受け止めたり、紹介したりする。 ○毛糸や毛糸によってできた形の多様な特徴やよさに気付けるように、活動を真上から映した俯瞰の視点を撮影し、モニターに映す。 ○新たな毛糸の結び方やつなぎ方を思い付けるよう、活動場所を真上から映した俯瞰視点の映像を提示する。 ○光源が移動すると毛糸の影の太さや細さ、奥行感が変わることに気付くからイメージや思いが広がるよう、光が当たった時の毛糸の面白さなどの児童のつぶやきや思い付きを共感的に受け止めたり、紹介したりする。 ○毛糸でできた景色を鑑賞したことを基に、自他の活動を自覚できるよう、タブレットで見付けた景色を記録するよう促す。 ○次時の昼の活動への見通しがもてるように、結び方やつなぎ方の工夫これからしたいことを問いかける。
4 本時の学習の振り返りをする。 ・次の時間はどんな結び方やつなぎ方ができるかな。夜になった時に影の形が面白くなるような毛糸の結び方やつなぎ方も考えてみたいな。	○本時で取り組んだことを自覚できるよう、本時の学習で気付いたことや次時で行いたいことを発表するよう促す。

授業の振り返り

※授業の様子は、本校 HP でも紹介しています。
【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】

機器	魚眼レンズ、タブレット、モニター
使用アプリ	ロイロノート
機能等	提出箱（共有・比較）

○実際の授業の流れと児童の様子

【第1時】 第1時の導入において、児童は教室に結ばれた幾つかの毛糸を見ると、学習活動への関心を高めていた。児童は1mの毛糸を用いて、教師があらかじめ取り付けた毛糸に結んだり、つなげたりして活動を試した。その後、児童は配付された50mの毛糸を用いて活動に取り組んだ。教師は教室の天井に取り付けた2台のタブレットによって俯瞰の映像が2台のモニターに映し出されている環境について児童に伝えた。児童は活動中に俯瞰の視点が映し出されたモニターを見ていたが、モニターに映る俯瞰の視点を造形活動に生かす児童は少なかった。第1時の後半では、二人一組や三人一組になり、毛糸でできた形などを生き物やジャングルに例えたり、毛糸を引っ張ったりして動きを楽しみながら静止画や動画で記録した。そして、記録した静止画や動画はロイロノート上の提出箱に提出した。第1時の終末には、提出した静止画や動画をみんなで見合い、感じたイメージや思いを発表した。この発表を受けた児童からは「ジャングルみたいにしたい」「もっと毛糸で蜘蛛の巣みたいにしたい」などの発言をしていた。提出された他者の静止画や動画を共有することは、自己のイメージや思いを広げることにつながったと考えられる。



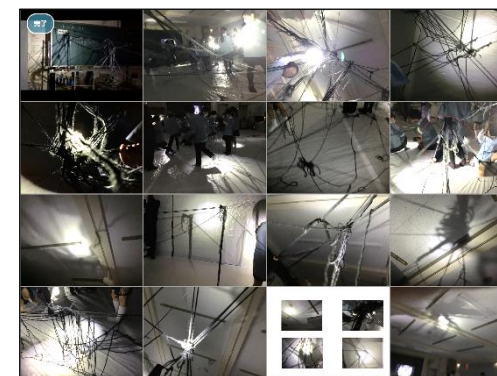
＜教室の環境構成＞

【第2時】 第2時の導入では、前時の活動を受けて、本時で取り組みたいことや試してみたいことを発言した。また第2時では、モニターに映る俯瞰の視点を見ることができ、毛糸でできた四角形の形に気付いたり、毛糸を引くことで毛糸が揺れる様子を楽しんだりすることができた。俯瞰の視点は児童の目線では見られない高＜俯瞰の視点を基に造形活動に取り組む児童の様子＞さの様子を映し出すことができる。また、魚眼レンズは広い範囲で活動場所を映し出すため、自分と離れた友達の活動を見たり、真上から見える毛糸の形や動きなどの新たな造形的な価値に気付いたりできた。一方で、今回の実践では、俯瞰の視点を基に対象や事象の価値に気付く児童が限られていた。



○授業改善に向けて

・児童が俯瞰の視点を造形活動に生かすという経験が十分ではなかったため、俯瞰の視点を用いる必要を感じづらかった。今後は俯瞰の視点を造形活動において繰り返し提示することで、俯瞰の視点のよさを自覚できるようにする必要がある。また児童が友達の作品や活動を見て自己の造形活動に生かせるように、学習の中で自由に ICT 機器を用いて撮影ができる環境が必要である。今回は天井からの視点をモニターに映す俯瞰の視点にしたが、活動の内容によって視点の角度や高さなどを工夫する必要がある。



＜ロイロノート上に提出された
児童の静止画・動画一覧箱＞